

メディア・スタディーズ におけるモノとデータ

現在のメディア・スタディーズを牽引するカルチュラル・スタディーズとメディア・アルケオロジーが共闘した最新成果『スクリーン・スタディーズ デジタル時代の映像／メディア経験』（光岡寿郎／大久保遼編、東京大学出版会、2019年）を起点に、メディア・スタディーズはメディア・アーカイブが収集・保存したモノとデータを如何に活用し得るかを議論する。

日時：2019年8月4日（日）13時30分～17時30分

会場：東京経済大学国分寺キャンパス6号館3階F305教室

定員：40名（無料／事前申込制）

申込先：羽鳥隆英（hatori@human.niigata-u.ac.jp）

※お申込時に当日の入室方法をご案内いたします。

第1部

問題提起者：仁井田千絵（立教大学）

水島 久光（東海大学）

羽鳥 隆英（新潟大学）

原田 健一（新潟大学）

第2部

応答者：大久保 遼（明治学院大学／編者）

光岡 寿郎（東京経済大学／編者）ほか

第3部

全体討論

主催：新潟大学地域映像アーカイブ研究センター

共催：KoSAC

『スクリーン・スタディーズ デジタル時代の映像／メディア経験』を読む